

有馬温泉の過去・現在・未来
～50 年間、有馬温泉に関わってきた経験から～

金井 啓修

有馬温泉観光協会 会長
株式会社御湯所 代表取締役

講演概要

有馬温泉は日本三古泉の一つとして千年以上の歴史を有しています。しかし、その長い歴史は「変わらなかった」ことで築かれたのではなく、時代の変化に応じて挑戦を続けながら、本当に大切なものを守り続けてきた結果であると私は考えています。

私は約 50 年前に有馬温泉へ戻り、旅館経営者として、また青年部、観光協会の活動を通して、有馬温泉のまちづくりに携わってきました。当時の有馬温泉は土曜日だけが賑わい、平日は静かな温泉街でした。その後、青年部によるイベント開催、由布院で学んだ「歩いて楽しい温泉街」という考え方、そして阪神・淡路大震災を契機とした温泉地の変化など、多くの経験を重ねながら現在の有馬温泉へと歩んできました。

一方で、現在の有馬温泉は、新たな宿泊施設の増加やインバウンドの拡大など、新しい課題にも直面しています。景観の維持、温泉資源の保全、交通対策、地域文化の継承など、未来へ向けた新たなマスタープランづくりが求められる時代となりました。

本講演では、有馬温泉の 50 年間の歩みを振り返るとともに、温泉地がこれからも持続的に発展するためには何を守り、何を変えていくべきなのかについてお話しします。

日本三古泉である道後温泉、白浜温泉とも共通する課題を踏まえながら、参加者の皆様それぞれの地域においても参考となるような視点を共有し、これからの温泉地づくりについて共に考える機会としたいと思います。

講演の内容

- 50 年前の有馬温泉と現在の変化
- 青年部活動とまちづくりの歩み
- 「温泉街全体から」から「旅館」へという発想の転換
- 阪神・淡路大震災が有馬温泉にもたらした転機
- 景観・温泉資源・温泉文化を守る重要性
- インバウンド時代における温泉地の課題
- これから 10 年・20 年先の温泉地の姿